

平成 29 年度第二回総会議事録

日時;平成 29 年 11 月 3 日(金、祝日)午後 2 時 30 分～4 時 30 分

会場;サンアビリティー城陽京都合宿所、会議室

京都府城陽市中芦原 55

議題

1、定足数の確認と議事録署名人

出席 ;吉田進、中ノ瀬啓作、仲博幸、中元伊知郎、吉田寿子、岡本孝義、宇城元、

大堂秀樹、三浦浩、城隆志

委任出席;石田直章、岡田有史、高橋省吾、福嶋康人、瀬尾桂一

欠席 ;向井英司、古城資久、金谷圭介、竹田将広

事務局;吉田彫子

全理事 19 名中 15 名出席、総会成立

議事録署名人、中ノ瀬啓作、宇城元

2、第一号議案 世界選手権について

メキシコ地震で世界選手権が延期されたことが報告された。パワーリフティングと水泳とが同時開催であり、水泳については、延期日程では参加しないことが決定された。これを受けて、JPC では、パワーリフティングも不参加にするよう提案があったが、IPC に確認したところ、「新人選手以外は世界選手権に参加しないと東京パラ参加の権利はない」と言う従来の方針が IPC より文書で示され、JPC にパワーリフティングの世界選手権参加を認めていただいた。ただし、危機管理体制をしっかりと整え、万一のときの連絡網を明確にしておくよう、指示があったことが報告された。

3、第二号議案 平成 30 年度行事計画について

競技会予定は下記の通り承認された

5月12－13日 第一回チャレンジカップ サンアビリティーズ城陽体育館

日程未定 兵庫県デイスエイブルパワーリフティング選手権大会 兵庫県障がい者交流会館

9月8－12日 2018 ワールドパラパワーリフティングアジア&オセアニアオープン選手権大会

北九州芸術劇場

日程未定 全日本パラ・パワーリフティング選手権大会、会場未定

日程未定 兵庫県ベンチプレス選手権大会 IPC 部門

4、第三号議案 イベント謝金について

体験会等参加時の謝金、肖像権を使う場合の謝金、講演会の謝金について、議論がなされ、別紙の通りとなった。ただし、正会員選手より、体験会＋ステージの場合は、謝金を上げてほしいという要望があったが、現段階では、連盟が受け取る謝金そのものが少ないことから、選手への謝金を増やすと、連盟が赤字になることが報告され、こちらについては、結論が出ず、継続審議となった。また、正会員選手から謝金が少ないときは、イベントそのものの参加を断るべきだ、と言う意見がだされた。事務局からは、イベントの謝金を上げてもらうよう交渉の努力はするものの、パラ・パワーリフティングは、まだまだ、知名度が低く、イベント参加によって、競技の普及を図りたいという意見が

だされたが、こちらについても結論は出ず、継続審議となった。

5、 第四号議案 2018年アジア選手権とアジア選手権選考について

アジア選手権には、男女各クラス2名、合計20名の参加枠がある。

この大会に参加しないと、東京パラの参加権利を失うので、連盟としても公平に選考することが要請されることが報告された。アジア選手権の選考は、次の大会のランキングを作成し、アジア選手権選考ランキングとすることになった。

1、 2017年世界選手権

2、 2017年全日本選手権

3、 3月18日、兵庫県ベンチプレス選手権大会 IPC 部門

4、 5/12-13、第一回チャレンジカップ

6、 第五号議案 全日本選手権大会について

12/17 日体大にて開催、締め切りは 11/17 であることが報告された。

7、 第六号議案 来年度からの各種登録費と保険について

7月ごろ、JPC の指導もありスポーツ安全保険に加盟することが検討された。意見の募集を行ったが、このメールが届いていないという報告があった。事務局としては選手からの、更なる出費は控えてもらいたいという意見を受けたので、来年度については、値上げた登録費の中から、保険に加入することが報告された。それに対して、せっかく登録費を値上げたのに、保険を支払うのでは、値上げの意味が無いので、別途徴収すべきという意見がだされ、来年度は登録費の中から、翌年度からは、別途、スポーツ安全保険料(2000円弱)を徴収することが決まった。

また、美津濃さんからツリパンの製作について、連盟を通して申し込んでもらいたいという要望があり、その際、登録団体マークも印刷可能という報告を受けた。今まで、団体登録は、年間5000円であったが、美津濃さんの提案で、登録団体名の露出が増えるので、団体登録費は、年間1万円に値上げすることとなった。

8、 第七号議案 その他

* 最近、フェイスブックに書くべきでない事柄を書き、一部の選手から問題視する声が上がっている、と言う報告があった。昨今、競技団体のコンプライアンスを徹底することを指導されていることを鑑み、連盟として、即刻対応すべき、という意見がだされ、対応することとなった。

* 他連盟からの要請で講師を派遣する場合、原則、連盟役員と選手とを派遣するものとする。

以上、審議が終了したので、閉会宣言が理事長よりなされた。

書記 事務局 吉田寿子

議事録署名人

中ノ瀬啓作



宇城元



理事長 吉田進

